

JICA日系研修員の受け入れを終えて

薬学部薬剤学講座(薬剤学) 齊藤 浩司

宮島ジュリアネ佳代さんが、昨年6月から本学で行ったJICA日系研修を無事終了し、3月末ブラジルに帰国しました。薬学部薬剤学講座(薬剤学)でJICA日系研修員を受け入れたのは、河合ときえルシアナさん(2006年、ブラジル)、佐藤セシリアアナさん(2010年、アルゼンチン)、宮内クリスチーナみつえさん(2010年、ブラジル)、山崎ダイアナ莉沙さん(2012年、パラグアイ)に次いで5人目です。宮島さんには、3月末の日本薬学会で発表することを目標に、昨年当研究室に導入したLC/MS/MSを駆使してカルバペネム系抗生物質の体内動態を解析するというテーマに取り組んでいただきました。測定機器の操作やラットを用いた実験に当初はかなり苦労されていましたが、限られた時間の中で着実に成果をまとめていただきました。薬学会の規模の大きさに

驚きながらも、そこで発表の機会を得たことは本人にとって大変貴重な経験になったようです。

また、日本の医療システムを学ぶ目的で、札幌東徳洲会病院での研修も行っていただきました。1ヶ月という短い期間でしたが、宮島さんは帰国後日系人医療に携わっていくことを希望していましたので、電子カルテシステムを導入した診療体制や、病棟における服薬指導・注射薬混注業務・医薬品情報収集・在宅医療などの薬剤師業務はとても印象的だったそうです。

冬でも10℃を下回ることがないところで生まれ育った宮島さんにとって北海道の雪と寒さは正に想定外だったようですが、体調を崩すこともなく元気に研修プログラムに取り組み当初の目標を達成してくれたことに、私たち研究室スタッフも大きな喜びを覚えています。

離日に当たっては、薬学会でのポスター発表終了後直ちに熊本から羽田経由で成田に移動し、カタル経由でサンパウロに向かうという強行スケジュールでしたが、熊本城で見た満開の桜の美しさをその目に深く焼き付けてくれたことと思います。

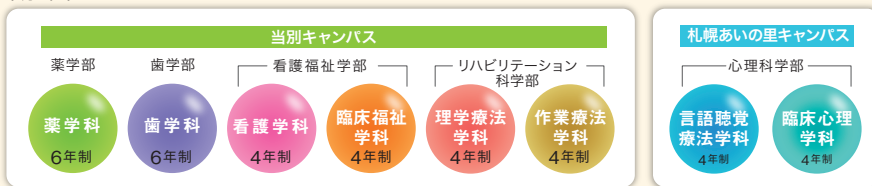


2015年度より、心理科学部が当別キャンパスへ。

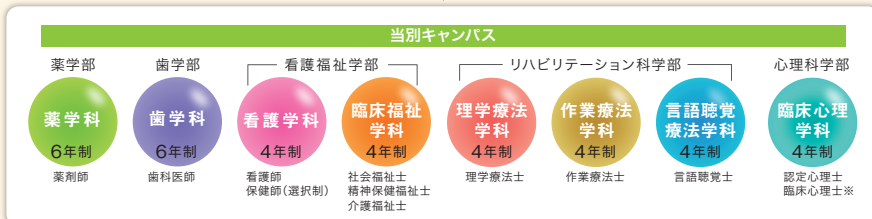
多職種連携教育がさらに充実。

札幌あいの里キャンパスの臨床心理学科・言語聴覚療法学科は、2015年度より当別キャンパスへ移転します。すべての学部学科を、ひとつのキャンパスに集約。これに合わせ、リハビリテーション科学部に言語聴覚療法学科を組み入れ、全国でも数少ない、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士の3職種を養成する学部として生まれ変わります(構想中)。医療や福祉に携わる多彩な分野の連携が深まり、「チーム医療」を学ぶ環境がさらに充実します。

〈現在〉



〈2015年度より〉



※公益財団法人日本臨床心理士資格認定協会が指定した大学院修士課程の修了が条件です。本学大学院心理学研究科臨床心理学専攻は第一種指定を受けているため実務経験なしで受験が可能です。

渋谷ダブルツールカフェ 北海道医療大学店がオープンしました。

平成26年4月8日(火)東京・渋谷で大人気の「ダブルツールカフェ」が北海道医療大学の中央講義棟10階にオープンしました。これは本学卒業生が多数関わるNPO法人「よきによぎ」と渋谷ダブルツールカフェ、そして北海道医療大学とのコラボレー

ションにより実現したものです。「NPO法人によきによぎ」大原裕吉理事長ご挨拶の後、宮司正毅当別町長、「(有)SS&W」齊藤 正二郎代表取締役社長、野口和夫ショコラティエ、大原裕吉理事長、及び本学より東郷重興理事長、新川詔夫学長がテープカットを行いました。

新たなカフェのオープンにより、中央講義棟10階ラウンジは、よりリラックスできる憩いの場となります。

平成26年4月14日(月)には、安倍昭恵内閣総理大臣夫人が訪問され、夫人は本学の教育理念である「保健・医療・福祉の連携、統合をめざす創造的な教育」の取り組みに深く関心を持っていただき、「地域が主体となる福

祉社会の実現に向けて、協働していきましょう」と学生にお話いただいた後、カフェの味や雰囲気を楽しみながら本学の学生と接していただきました。



■テープカットの様子



■学生との1枚(前列右から4番目が安倍夫人)